

平成28年度 文化庁日本語教育研究協議会 第3分科会

地域における日本語教育人材の 養成・研修プログラムを考える

報告者：犬飼 康弘氏（公益財団法人ひろしま国際センター）

瀬川 万有美氏（堺市文化観光局国際部国際課）

進行：御館 久里恵（鳥取大学）

本分科会のねらい



日本語教育人材の養成について、特に特徴的な活動を行っている団体に、養成・研修の内容を報告してもらうことを通じて、**地域における日本語教育人材に必要とされる資質・能力**を明らかにするための示唆を得る。

本分科会の流れ



- イン트로ダクション(進行役)
日本語教育小委員会での議論と、「生活者としての外国人」に対する日本語教育における人材育成の現状
- 報告(報告者)
 1. 犬飼 康弘氏(公益財団法人ひろしま国際センター)
 2. 瀬川 万有美氏(堺市文化観光局国際部国際課)

* 各報告の後, 5分程度の質疑(事実確認等)
- 全体質疑, 意見交換

A background image showing a desk with a spiral-bound notebook, a pen, and a pencil. The notebook is open, and the pen is lying on it. The pencil is also visible. The desk surface is light-colored.

イントロダクション

日本語教育小委員会での議論と、
「生活者としての外国人」に対する日
本語教育における人材育成の現状

日本語教育小委員会における審議(1)

－体制整備と内容の検討

平成19年7月：文化審議会国語分科会に「日本語教育小委員会」を設置

1. 地域における日本語教育の体制整備
2. 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討

1. 地域における日本語教育の体制整備

(1) 各機関の役割分担と連携協力

国

- ◆生活者としての外国人に対する日本語教育の目標及び標準的な内容・方法等を指針として示す。
- ◆都道府県及び市町村と連携して指針の具体化を担う人材を養成する。
- ◆地域における日本語学習の環境整備のための支援を行う。等

都道府県

- ◆域内の日本語教育の体制整備を行う。
- ◆国が示す標準的な内容・方法を参考に、実情に応じた内容・方法を検討・調整する。
- ◆域内の市町村において、日本語教育を事業化し推進できる人材を、市町村と連携して養成する。等

市町村

- ◆都道府県が検討・調整した日本語教育の内容・方法を、実情に沿って具体的に編成・実施する。
- ◆地域における日本語教育の指導者を養成する。
- ◆日本語教室の設置運営を行う。等

日本語教育機関, NPO, ボランティア団体, 企業, 在住外国人による団体, その他関係団体



日本語教育小委員会における審議(1)

－ 体制整備と内容の検討



1. 地域における日本語教育の体制整備

(2) 地域における日本語教育で必要とされる機関及び人材とその役割

地域の特性に応じた日本語教育の企画・運営を行うための
コーディネート機能を果たす機関及び人材が必要

⇒ 都道府県及び市町村においては、日本語教育のコーディネート機能を自治体等の本来業務として位置づけ、それを担う人材をできる限り常勤職員として配置することが重要である。

(以上、『国語分科会日本語教育小委員会における審議について』(平成21年1月)より発表者まとめ)

2. 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討

⇒ 『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』以下5点セット

日本語教育小委員会における審議(1)

－体制整備と内容の検討



2. 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討
『「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について』
(平成25年2月;5点セットのうちの1つ)
- ・「生活者としての外国人」に対する日本語教育を, カリキュラム案等を活用して行う上で必要な能力についての評価
 - ・日本語教育プログラムを**企画(Plan)**, **実施(Do)**, **点検(Check)**, **改善(Action)のPDCAサイクル**に基づいて行う能力を, **実践者自身が評価し**, 変化を振り返る
 - ・①指導力評価項目一覧, ②指導力評価に関するチェックシート, ③日本語教育プログラムの実践の記録, ④研修受講の記録から成る**「日本語指導力ポートフォリオ」**を作成

指導力評価に関するチェックシート

Plan-Do-Check-Actionの別	対象例	評価の記録		
		①	②	③
指導力評価項目	指導者	月	月	月
		日	日	日

Plan(企画)				
I 地域や外国人の状況の把握				
1. 地域の外国人の状況の把握				
(1) 地域の外国人の状況や学習者の状況を把握している				
1)	地域の外国人の増減とその理由を把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2)	学習者がこれまでに日本語学習をどの程度行っているか把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3)	学習者がこれまでに言語学習をどの程度行っているか把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4)	学習者の年齢、職業、家族形態などを把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5)	学習者の学習環境（辞書やオーディオ機器・PCなどを所有しているが、日本語学習に協力してくれる人はいるか、どの程度日本語学習に時間を割けるかなど）を把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6)	学習者の使用言語とその使用場面、日本語でのやり取りが求められる場面を把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) 学習者のニーズを把握している				
7)	学習者が生活面で課題として抱えていることを「今できないと困ること」「今できるようにになりたいこと」「今後できるようにになりたいこと」「いつかできるようにになりたいこと」に分類するなどし把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8)	学習者が求める教室活動の方法や教材などを適切な方法で把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 地域のリソース等の把握				
(3) 地域のリソース等を把握している				
9)	日本語教室に使える場所がどこにあるか把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10)	協力してくれる機関がどこにあるか把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11)	多言語での情報がどこにあるか把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12)	指導者・協力者がどこにいるか把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13)	通訳がどこにいるか把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14)	地域の他の日本語教室の状況を把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15)	他の地域の日本語教室の事例を把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
II 日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置				
3. 日本語教室の目的の設定				
(4) 学習者の生活課題の解決に向けた日本語教室の目的を設定している				
16)	地域の外国人の状況を踏まえた上で「具体的な学習者像」を設定し、そこから学習者の生活課題の解決に向けた日本語教室の目的を設定している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17)	学習者の社会参加、エンパワメント につながる日本語教室の目的を設定している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4. 日本語教室の設置				
(5) 地域の外国人の状況に応じた日本語教室を設置している				

Do(実施)				
IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施				
10. 日本語教室の運営				
(14) 日本語教室の運営体制が適切である				
41)	日本語教室の目的等を実施者の間で共有している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
42)	日本語教室の運営に必要な作業を洗い出し、実情に即した運営体制を作っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
43)	日本語教室に関する学習者の希望や意見を聞いている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
44)	日本語教室の場所や時間、日本語教育プログラムの内容について定期的の実施者の間で検討している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
45)	コーディネーター、指導者、協力者の役割がそれぞれの間で理解され、十分にコミュニケーションが取れている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(15) 教室活動に必要な指導者を育成している				
46)	指導者を育成するための研修を企画・実施している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
47)	外国人の指導者を育成するための研修を企画・実施している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
48)	外部で行われている講座やセミナーの情報を集め、指導者に紹介している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(16) 日本語教室の意義や内容を伝えている				
49)	地域住民の日本語教育への理解を得るため、日本語教室の意義や内容を広く社会一般に伝えている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
50)	日本語教室の意義や内容が学習者に届きやすいように、周知の方法を工夫している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(17) 行政・関係機関との連絡調整を行っている				
51)	日本語教室の運営に当たって、外国人に関する様々な情報交換を行ったり、地域住民の日本語教室への参加・協力を得たりすることのために、行政・関係機関と連絡調整を行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
52)	学習者が日本語教室以外の他の組織・コミュニティ（自治会など）にも参加できるように案内をするなどの工夫をしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
53)	学習者の生活課題の状況に応じて学習者を必要な行政の相談窓口等につないでいる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(18) 教室活動の準備を行っている				
54)	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的と目標を十分に理解している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
55)	教室活動において使用する教材・教具を準備している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
56)	これまでの教室活動の内容を踏まえて毎回の教室活動の内容を設定している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
57)	教室活動の内容や時間配分、予定通りにいかなかったときの代案を考えている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
58)	学習に市販の教材を使用する際には、著作権の取扱いを法律に沿って行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11. カリキュラム案の理念に沿った日本語教育の実施				
(19) 学習者の状況やニーズを踏まえた教室活動を行っている				
59)	学習者が社会の一員として自立した生活を送ることができることを目指した教室活動を行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
60)	学習者の生活課題の優先度が高い生活上の行為を取り上げ、教室活動を行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
61)	学習者の状況や日本語のレベル、ニーズ、学習スタイルを考慮して教室活動を行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
62)	教室活動を通して学習者の状況や日本語のレベル、ニーズを把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

➡ 評価のための項目だが、養成・研修に必要な項目の策定にあたって参考になるのでは

日本語教育小委員会における審議(2)

一 課題整理



○平成24年5月：小委員会に「課題整理に関するワーキンググループ」を設置
改めて「**基本的な考え方**」を整理すると共に、具体的な議論のための検討材料として「**11の論点**」を整理

○関係機関・団体、都道府県・市区町村等から11の論点に関してデータ、意見を収集し、整理

○平成26年1月31日に「日本語教育の推進に当たっての主な論点に関する意見の整理について(報告)」を取りまとめ

○**論点7・論点8**について、平成28年2月29日に「地域における日本語教育の推進に向けて(報告)」を取りまとめ

日本語教育小委員会における審議(3)

一論点7 日本語教育のボランティアについて

平成28年2月:『地域における日本語教育の推進に向けて[報告]』

(都道府県・政令指定都市への書面調査, 各地の取り組みのヒアリング)

日本語教育の実施体制は地域によって大きく異なり, ボランティアの位置付けや役割も様々である。そのため, **一義的に「ボランティアはこうあるべき」といったことを論じるのは適当ではない**と考え, ボランティアを含めた地域の日本語教育の実施体制に関するまとめとした。(「はじめに」より)



地方公共団体及び国で期待される取組(前掲報告書より)

市区町村

1. 日本語教育の実施

- 日本語教室の設置・運営や都道府県や近隣自治体との連携
- ボランティア団体等の活動に対する支援

2. 日本語指導者の育成

- 地域における日本語指導者の育成

3. 個々の外国人等のニーズの把握

- 教室設置のための学習者のニーズの把握
- 新たな事業を実施するに当たっては、外国人のニーズの把握

4. 日本語教育に関する住民の理解促進

- 教室における活動内容の広報
- 新たに事業を実施するに当たっては、住民の理解を得ることが重要

※1から4に係る予算の確保

都道府県

1. 指針に基づく域内の日本語教育の体制整備

- 域内の日本語教育体制の整備
- 域内関係者の連絡会議等の開催
- 国が示す日本語教育の内容を参考とした日本語教育の内容・方法の検討

2. 日本語教育の事業を推進する人材の育成

- 日本語教育を推進する人材の育成を市区町村と協力して実施

3. 域内の日本語教育のニーズの把握

- 域内の日本語教育の実態やニーズの把握を市区町村と協力して実施

4. 日本語教育の活動内容の広報

- 日本語教育活動内容の広報

※1から4に係る予算や市区町村に対する財政支援に係る予算の確保

国(文化庁)

連携・協力
指導・助言
財政支援

1. 日本語教育の事業を推進する中核人材の育成

- 国の示す指針を実践できる人材を自治体等と協力して育成する
- 地域の日本語指導者を適切に指導できる指導者の指導者を育成する

【関連事業】

- 都道府県・市区町村等日本語教育担当者研修
- 地域日本語教育コーディネーター研修

2. 日本語教育の重要性の周知・広報

- 日本語教育施策の普及に当たって、国民一般への周知も視野に入れた周知・広報に努める

- 日本語教育研究協議会
(日本語教育大会等)

3. 日本語教育に対する財政支援

- 日本語教室が開設されていなかったり、外国人のニーズに沿った日本語教育が実施されていない状況を改善するため、適切な財政支援を行う

- 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

※1から3に係る予算の確保のほか、上記施策の基礎として、①日本語教育に関する政策を検討する際の基礎となる実態調査、全国の動向の把握、専門的調査の実施、②日本語教育の目標・教育内容、体制整備を指針として示す、日本語能力、指導力の評価方法について指針を示すことを行う。

その他に、日本語教育の実施体制のポイントとして6点を挙げ、それぞれ特徴的な取り組みを行っている事例を紹介

日本語教育小委員会における審議(3)

一論点7 日本語教育のボランティアについて

平成28年2月:『地域における日本語教育の推進に向けて[報告]』

(都道府県・政令指定都市への書面調査, 各地の取り組みのヒアリング)

日本語教育の実施体制は地域によって大きく異なり, ボランティアの位置付けや役割も様々である。そのため, **一義的に「ボランティアはこうあるべき」といったことを論じるのは適当ではない**と考え, ボランティアを含めた地域の日本語教育の実施体制に関するまとめとした。(「はじめに」より)

しかし, 日本語教育の取組の多様性(内容や指導者の立場・役割等)が広がってきている中, それぞれの取組に携わる**人材に求められる資質・能力について整理し, 必要な対応策等について検討する必要がある**のではないかと考える。(「終わりに」より)



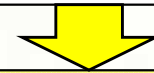
日本語教育小委員会における審議(4)

— 論点5「日本語教育の資格」・6「日本語教員の養成・研修」 —



平成28年度の審議

○論点5「日本語教育の資格について」、
論点6「日本語教員の養成・研修について」を審議中



その中で、地域の日本語教育
人材の養成・研修についても
あわせて審議

日本語教育小委員会における審議(4)

一論点5「日本語教育の資格」・6「日本語教員の養成・研修」

国内									海外
活動分野 役割	生活者としての外国人								初等中等高等教育及び成人に対する日本語教育、日系人等に対する継承語教育
	生活者としての外国人	留学生	就学前の子供とその保護者	外国人児童・生徒等	就労準備・研修生	技能実習生	難民等	高度人材...	
日本語指導者 (日本語教員を目指す者)									
現職日本語指導者(現職日本語教員)									
日本語指導補助者 (日本語学習支援)									
日本語教育コーディネーター (主任教員)									

活動分野や役割に応じた教育内容を検討し、カリキュラム案として提示？

共通して求められる基盤となる能力・資質もあるのでは？



地域日本語教育人材に必要な資質・能力とは？

※参考 『平成22年度文化庁日本語教育研究委託 生活日本語の指導力の評価に関する調査研究—報告書—』社団法人日本語教育学会(平成23年3月)

地域日本語教育・支援に関わる人々に求められる資質・能力

		地域日本語 教育専門家	地域日本語 コーディネーター	システム・コー ディネーター	日本語ボラ ンティア
A	日本語教育に関する 知識・能力	◎	◎	○	△
B	日本語教育に関する 実践能力	◎	◎	—	△
C	“その地域社会”を理 解し, 生きる力	○	○	◎	○
D	企画立案能力	○	◎	◎	—
E	計画を実行する能力	○	◎	◎	—
F	対人関係を築く力	◎	◎	◎	◎



地域日本語教育人材の養成をどのように行うのか？



- ・誰が？（実施主体）
誰と協力して？（連携先）
- ・誰に？（対象者）
- ・何のために？（目的）

- ・教室や活動の理念
- ・現状の課題
- ・養成/研修後の見通し, 「出口」



- ・養成したい人材像（資質・能力等）
- ・研修の内容, 組み立て

報告

1. 犬飼 康弘氏
(公益財団法人ひろしま国際センター)

2. 瀬川 万有美氏
(堺市文化観光局国際部国際課)

The background of the slide features a top-down view of a desk. On the right side, there is a spiral-bound notebook with a light-colored cover. A silver pen with a black grip and a black pen are resting on the notebook's pages. The desk surface is a light, neutral color. A large, semi-transparent yellow rectangle is centered on the slide, containing the main text.

全体質疑・意見交換

	犬飼氏	瀬川氏
誰が？	自治体国際化協会(県レベル) * 市町等の取組支援	市 国際課 * 日本語教室の側面的支援
誰に？ (対象者)	日本語ボランティアに興味のある人	I : 日本語ボランティアに興味のある人～活動1年未満 II : 活動1年以上
何のために？ (目的)	A市で日本語ボランティアとして活動する人材の養成 ・隣人として接することができる ・「やさしい日本語」でコミュニケーションができる	I : 市内日本語教室で活動するボランティアの養成／フォローアップ II : 入門教室に参加し、得たものを教室に持って帰る
人材像 (資質・能力)	・相互に学び・支え合う「日本語学習支援」の方法の基礎を知る ・外国人市民との対話から、必要な支援とそのあり方について考える	I : 異文化受容力, 共感的姿勢 日本語文法の基礎的な知識 コミュニケーション能力 交流活動につなげる力 II : I + つながりの構築
内容・ 組み立て	外国語体験, やさしい日本語, 日本語学習支援の方法, 外国人住民の「声」を聴く	I : ボランティア・教室の役割, 基礎的な文法知識, 「やさしい日本語」の活用, 「対話型活動」の方法 II : 事前研修と教室アシスタント